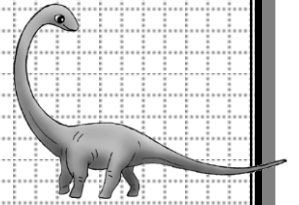


2020年1月

地質 — No. 20

けんぱくものしりシート

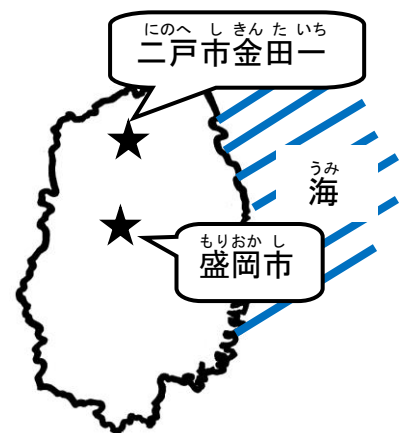
ユダクサカメ



なまえ：ユダクサカメ
 がくめい名： *Geoclemmys yudaensis* Shikama
 ぶんるい はちゅうこう もく 類：爬虫綱カメ目
 じだい しんせいだいしんだいさん きちゅうしんせい 代：新生代新第三期中新世
 さんしゅつ にのへ しきんたいちゆだ 産出：二戸市金田一湯田
 はっけんしゃ じすべ こうじ 発見者：地滑り工事をしていた作業員
 しょぞう じもと こじん 所蔵：地元の個人

ユダクサカメの化石が、二戸市金田一湯田の門ノ沢層(※1)という地層から見つかりました。その後、1953(昭和28)年に専門家の目にとまり研究が始まりました。現在、日本で確認されているクサガメ(※2)と比べて1.5倍大きいことや甲らの形の特徴から、1956(昭和31)年にクサガメ属の新種として報告されました。

ユダクサカメはすでに絶滅しており、化石も世界で1個体しか見つかりません。そのため、ユダクサカメは多くの謎に包まれています。その謎を解き明かしていくためにも、ユダクサカメの化石は、とても重要で極めて貴重なものなのです。



※1：約1600万年前の陸地に近い浅い海に、砂・泥・小石・火山灰などが層状に積み重なってできた地層。同じ地層からは、二枚貝・ウニ・カニ・植物の葉などのいろいろな種類の化石がたくさん見つかりしている。

※2：日本各地の川や沼などにすむカメ。甲らの大きさはオス20cm、メス30cmくらい。

こう も おおむかし やく おく まんねんまえ ちゅうせいだい き ごろ あらわ
甲らを持つ大昔のカメ 約2億2000万年前の 中生代ジュラ紀頃に 現れたと
 いわれています(最初の 恐 竜 が 現れたのと同じ頃)。

おおむかし げんざい ちが
大昔と現在のカメの違うところ

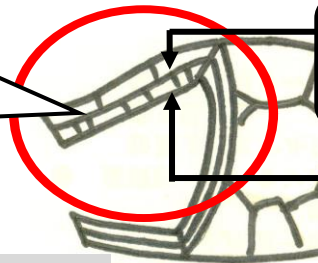
- ① **大昔のカメには、歯がありました。**
 →現在のカメに歯はなく、かたいものでもかみ切って飲み込める頑丈なクチバシがあります。
- ② **大昔のカメは、首や頭などを甲らの中にかくすことができませんでした。**
 →現在のカメの仲間の多くが、首や頭などを頑丈な甲らの中にかくすことができます。

おおむかし がいてき おそ
 大昔のカメは、外敵に襲われたときに攻撃を防いだり反撃をすることもできなかったの
 で、自分の体を守るために長い時間をかけてかたくて頑丈な甲らの中に頭や首などをかくせるように進化したよ。



こう
カメの甲ら

まい つなぎめ かせ
 2枚のつなぎ目が重ならないようになっている。



かくしつばん そとがわ ひ へんか
角質板(外側)→皮ふが変化したもの。
 せいちょう あ だっぴ
 成長に合わせて脱皮する。

こつばん うちがわ せきつい せ ぼね ろっこつ
骨板(内側)→脊椎(背骨)や肋骨が変化したもの。

くび あたま
カメの首や頭のかくしかた

◆ **首を縦方向(↑↓)に曲げてかくす仲間【潜頸類】**

なかま せんけいらい
 ・ユダクサカメ
 ・現在、日本にすんでいるすべてのカメ(クサガメなど)。

よこから見たとき

◆ **首を水平(←→)に動かし、横に曲げてかくす仲間【曲頸類】**

なかま きよくけいらい
 ・現在は、南半球にだけすんでいる(マタマタなど)。

うへから見たとき

おまけ こうげきりよく たか あたま おお
攻撃力が高いワニガメや頭が大きいオオアタマガメ、泳ぐために甲らが小さいウミガメなど、首や頭などを甲らの中にかくす必要がないカメもいるよ。

さんこう 『これなあに?』岩手県立博物館 2007年/
 『週刊 日本の天然記念物 動物編 第12回配本』株式会社 小学館 2002年 他

らいげつ がつ
 来月(2月)の
 けんぱくものしりシートは
 こうこ
考古-20だよ!
 おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
 ※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。